

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	176人	国語B	176人
② 数学A	176人	数学B	176人

5 留意事項

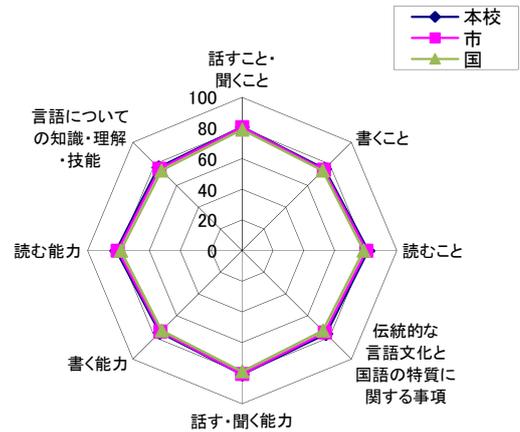
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 旭 中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

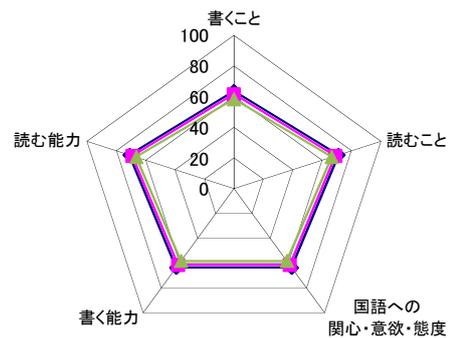
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	80.7	80.5	78.9
	書くこと	75.4	74.7	73.7
	読むこと	81.5	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.7	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	80.7	80.5	78.9
	書く能力	75.4	74.7	73.7
	読む能力	81.5	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	76.7	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	63.6	61.6	58.3
	読むこと	71.1	69.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	63.6	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	63.6	61.6	58.3
	読む能力	71.1	69.1	66.5
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

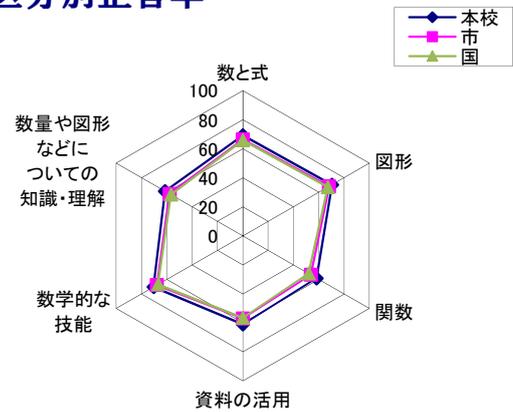
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○市の平均正答率と比べて、0.2ポイント高い結果が得られた。</p> <p>○スピーチの際に提示された資料の意図を考える問の正答率が、全国の平均と比べて、7.0ポイント高い。目的に応じて工夫して話そうとする姿勢が表れている。継続的な話し合い活動の成果が表れた。</p> <p>●話し合いの方向を捉える問の正答率が、全国の平均と比べて、0.5ポイント低い。相手の発言や立場を踏まえて話し合う技能に課題がある。</p>	<p>・今後も、様々な話題について話し合う機会を積極的に設ける。</p> <p>・話し合いの広がりや方向性に注意して、それぞれの場面で適切な発言がされていたかを振り返る学習活動を展開し、内容が噛み合った話し合いができるように指導する。</p>
書くこと	<p>○市の平均正答率と比べて、A問題で0.7ポイント、B問題で2.0ポイント高い結果が得られた。</p> <p>○文章を推敲した意図を考える問の正答率が、全国の平均と比べて、5.4ポイント高い。文章を推敲する際にどんな観点に基づいて行えばよいかをよく理解している。</p> <p>●文章の構成の意図を考える問の正答率が、全国の平均と比べて、0.8ポイント低い。伝えたいことをおおまかな内容ごとにまとめて書きまとめる技能に課題がある。</p>	<p>・今後も文章を推敲させる学習活動の際には、目的や意図、伝える相手などを意識させながら行わせる。</p> <p>・伝えたいことを単に羅列するのではなく、内容のまとまりや共通点を意識させながら書く習慣を付ける。そのために、書きたい内容をカードや付箋などに整理させ、それを再構成する学習活動を展開する。</p>
読むこと	<p>○市の平均正答率と比べて、A問題で1.0ポイント、B問題で2.0ポイント高い結果が得られた。</p> <p>○説明的文章において、文章の展開に即して内容を捉える問の正答率が、全国の平均と比べて、6.6ポイント高い。抽象的な語句に注意して、情報を整理しながら読むことができる。</p> <p>●説明的文章において、書き手の意図を捉える問の正答率が、全国の平均と比べて、1.8ポイント低い。文章を客観的な立場で捉え直す力に課題がある。</p>	<p>・表を用いて文章の内容を整理したり、パンフレット形式にまとめて直したりする学習活動を今後も継続して展開する。</p> <p>・文章の展開や表現の工夫に着目させ、書き手が伝えたい内容を客観的に捉えさせる学習活動を展開する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○市の平均正答率と比べて、1.1ポイント高い結果が得られた。</p> <p>○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問の正答率が、全国の平均と比べて、7.7ポイント高い。多読を重視した古典の授業を展開したことが奏功した。</p> <p>●適切な敬語に関する問の正答率が、全国の平均と比べて、4.1ポイント低い。尊敬語と謙譲語の混同がみられる。</p>	<p>・今後も、教科書教材にとどまらず、様々な種類の古典の文章に触れさせることにより、古文に慣れさせ、古文に親しむ態度を育む。</p> <p>・敬語の基本的な知識を再確認させるとともに、実生活での敬語の使用場面を具体的に想定し、積極的に敬語を用いて表現しようとする意欲を高める。</p>

宇都宮市立 旭 中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

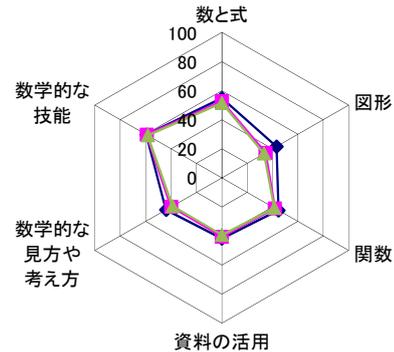
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	69.3	66.4	65.9
	図形	70.4	68.1	67.1
	関数	58.2	53.7	52.0
	資料の活用	60.9	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	70.5	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	61.5	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	54.8	52.7	51.5
	図形	43.1	34.5	33.3
	関数	44.7	41.9	41.4
	資料の活用	41.7	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	44.0	39.9	38.9
	数学的な技能	59.4	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○市の平均正答率と比べて、A問題で2.9ポイント、B問題で2.1ポイント高い結果が得られた。</p> <p>○比例式をつくる問の正答率が、全国の平均と比べて、9.8ポイント高い。具体的な場面において、数量の関係を捉える力がついている。</p> <p>●不等式の意味を読みとる問の正答率が、全国の平均と比べて、1.1ポイント低い。数量の大小関係を読みとる力に課題がある。</p>	<p>・方程式の解法については、手立てをしっかりと理解してから多くの問題を解くことで、確実に定着させる。</p> <p>・数量の関係を正しく読みとり、数学的に表現するために、具体的な場面で考えたり、図や表などを用いて考えたりできる学習活動を展開する。</p>
図形	<p>○市の平均正答率と比べて、A問題で2.3ポイント、B問題で8.6ポイント高い結果が得られた。</p> <p>○三角形の合同を利用して証明する問の正答率が、全国の平均と比べて、13.5ポイント高い。筋道を立てて考え、証明する力がついている。</p> <p>●与えられた方法で作図された直線について考える問の正答率が、全国の平均と比べて、7.3ポイント低い。作図の意味を理解することが課題である。</p>	<p>・図形の証明については、根拠となることがらをしっかりと確認し、証明の手順をおさながら、指導する。</p> <p>・立体については、見取り図や展開図など様々な視点から捉えられるような学習活動を展開する。</p>
関数	<p>○市の平均正答率と比べて、A問題で4.5ポイント、B問題で2.8ポイント高い結果が得られた。</p> <p>○一次関数の式から変化の割合を求める問の正答率が、全国の平均と比べて、14.9ポイント高い。一次関数$y=ax+b$のaが意味するものをよく理解できている。</p> <p>●一次関数の表からxの値に対応するyの値を求める問の正答率が、全国の平均と比べて、2.5ポイント低い。表から数量の変化や対応の特徴を捉える力に課題がある。</p>	<p>・表・式・グラフから数量関係を読みとり、それぞれの関係性を理解することができるよう、関連付けた学習活動を展開する。</p> <p>・比例・反比例・一次関数のそれぞれの特徴を、表・式・グラフからしっかりと読みとることができるよう、2つの数量の関係性を意識させながら学習活動を展開する。</p>
資料の活用	<p>○市の平均正答率と比べて、A問題で4.0ポイント、B問題で1.2ポイント高い結果が得られた。</p> <p>○ある値をもとに、真の値の範囲を選ぶ問の正答率が、全国の平均と比べて、9.6ポイント高い。近似値と誤差の意味を理解できている。</p> <p>●相対度数を求める式を書く問の正答率が、32.6ポイントと低い。与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現したり、相対度数の意味を理解したりする力に課題がある。</p>	<p>・資料を整理した表から適切な代表値を読みとることで、資料の特徴をつかむことができるという良さを実感させる学習活動を展開する。</p>

宇都宮市立 旭 中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○普段テレビやゲーム、インターネット、スマホなどの使用状況に関していずれの場合も全国、県の平均を下回っていた。日頃時間の使い方に関して指導していることが実を結び、自制心のある内容になったと類推する。

○自己肯定感を問う設問に対して36、9%という全国、県の平均から見ても10ポイント近く高い結果が出た。これは【先生はあなたの良いところを認めてくれますか】との問いに対しても高い結果を得ていることから見て取れるように、教師と生徒の信頼関係があるから自己肯定感が生まれていると推察される。今後とも生徒と良好な関係を築いていきたい。

○学習時間については1日に3時間以上10、2%、2～3時間36、4%、1～2時間35、2%となっており自主学習の習慣が身につけているといえる。今後は学習時間を延ばすとともに、学習内容の質も高められるよう支援指導していきたい。

○学校に行くことが楽しいと思う生徒の割合が59、1%で、どちらかといえばそう思うを合わせると89、2%となり約9割の生徒が学校を楽しい空間ととらえている。これは各種学校行事や部活動等において生きがいを感じられるからだと思われる。生徒が輝ける場所を数多く設定していることがこの結果につながったと思われる。

○本校はボランティア活動に力を入れているためか、県49、5%、全国48、7%と比べて20ポイント以上高い71、6%を示した。教師側の負担も大きいですが、真摯に取り組む姿勢は本校の誇りであるので、これからも積極的に推進していきたい。

○いじめを許さないとする生徒の割合が84、1%と高く、全国より10ポイント、県より5ポイント高い。これは日ごろの生徒指導のたまものとする。今後も人権に配慮した指導をしていきたい。

●特に大きな問題はないが読書等については改善の余地があると考えられる。朝の読書の時間等を活用していきたい。